知る、考える、進めるために。
除染情報プラザ 福島県 環境省

福島再生 REPORT 101

平成28年6月16日

福島の除染活動状況をお伝えします。

楢葉町

6年ぶりの営農再開 町の基幹産業の復活に向けて。

田植えには上繁岡水田復興会の皆さんと松本町長（左から４人目）、丸川大臣（同５人目）、井上副大臣（同６人目）が参加しました。

東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示が昨年９月に解除された楢葉町で、出荷に向けた本格的な米作りが６年ぶりに始まりました。楢葉町では、これまでの実証栽培において放射性物質の検査結果が基準値を下回り、お米の安全性が確認されたため、今年３月に出荷制限が解除されました。

５月２１日に田植えを行ったのは上繁岡水田復興会の生産者の皆さんです。復興会の皆さんは避難先から町に通い、実証栽培を続けながら、除染後の田んぼの耕起や草刈りなど農地保全の取組を行ってきました。

田植えには、佐藤充男会長はじめ復興会のメンバーと松本幸英町長、丸川珠代環境大臣、井上信治環境副大臣も参加しました。

この日植えたのは「天のつぶ」で、復興会が６年ぶりに種から苗を育成したものです。佐藤会長は「この３年間、田んぼが荒れないように草刈りなどの環境整備に力を入れてきました。まだまだ課題はありますが、第一歩を踏み出すことができました」と営農再開の喜びと意欲を語りました。

生産者の方の指導で田植え機を運転し、その後、松本町長と手植えも行った丸川大臣は「生産者の方が作業を教えてくださりながら『農業は楽しいでしょ』と。皆様が、この土地を愛し、農業を愛していらっしゃることを強く感じました。皆様が安心して農業を再開できるように、楢葉町のお米の安全性やそのための努力について県内外にしっかり発信していきます」と述べ、風評被害の払拭と復興に力を入れていくことを強調しました。松本町長は「農業の復興なくして町の復興なし。農家の皆さんとともに歩んでいきます」と農業再生への熱い思いを語りました。

楢葉町では、さらに多くの町民の方が戻ってこられるよう、来年春を帰町目標に、災害公営住宅や商業施設の整備等も精力的に進めています。今年は町制施行６０周年の節目の年。町の再生に向けた歩みが一歩一歩確実に刻まれています。

田植え機を運転し苗を植えた丸川大臣（左）。